

平成 24 年度 若手研究者海外派遣プログラム報告書  
大阪大学大学院理学研究科 生物科学専攻 博士前期課程一年 谷本悠生

出張先： 5<sup>th</sup> East Asia Worm Meeting  
Chien Tang Youth Activity Center, Taipei

このたび、新学術領域若手研究者海外派遣プログラムの助成を頂き、2012 年 6 月 27 日から同 6 月 30 日までの 4 日間、台北市にて開催された 5<sup>th</sup> East Asia *C. elegans* Meeting に参加させていただきました。この East Asia *C. elegans* Meeting は、200 名超の東アジアを初めとする世界各国の *C. elegans* 研究者が参加し、著名な研究者から大学院生までの参加者全員が一つの会場に集まって活発なプレゼンテーション・ディスカッションを行うことが特徴の学会です。

私はこのような貴重な場で、口頭発表を行う機会をいただくことができました。発表内容は、私がこれまで進めてきたプロジェクト「*C. elegans* に自在に匂い刺激を吹き付け、応答行動の追跡と神経活動イメージングを行う統合型トラッキングシステムの確立」についてでした。私にとっては初めての国際学会参加かつ英語での口頭発表であったことに加え、発表日時が最終日の最後の発表であったこともあり、会期中は常に緊張し通しでした。ですが、会期中毎晩深夜まで、練習や質問の想定を重ねた甲斐があり、本番では発表内容を正しく伝えることには成功し、発表後は多くの方からの好評をいただくことができました。



学会会場  
(Chien Tang Youth Activity Center)



6/30 口頭発表の様子

しかしながら、プレゼンテーションにおける英語の適切な発音・イントネーションや、海外の研究者との英語でのコミュニケーション等、英語力に関する部分で様々な課題が残りました。今学会の参加により、今後研究活動を進めていく上での英語力の重要性を痛感し、今後は日々の英語トレーニングを通して徐々に改善していきたいと考えています。

また、*C. elegans* 研究者を対象とした学会であったため、私の研究内容と近い研究をなさっている方の参加も複数あり、それら方々の発表を聞き、その後に直接議論させていただいたこと通して、自身の研究を進める上での重要な刺激や助言を受けることができました。以上のように、私の初めての国際学会参加は非常に有意義で収穫の多いものとなりました。

今回の新学術領域若手研究者海外派遣プログラムからのご支援に際しまして、新学術領域『神経系の動作原理を明らかにするためのシステム分子行動学』の研究代表者であられる飯野雄一先生、ならびに領域事務の岩原由加子様、ご前任の石澤和子様には大変お世話になりました。この場を借りて、心からの感謝を申し上げます。